選言と連言の作用域の研究

伊藤　さとみ / ITO, Satomi

文教育学部言語文化学科

■専門分野　意味論
■キーワード　言語学、形式意味論、中国語

連絡先　ito.satomi@ocha.ac.jp

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

本研究は、通言語的に見られる選言と連言の交替現象を調査し、疑問文脈中の選言に対する新しい論理形式を考案したものである。論理学では、選言の否定は否定の連言に等しいことはよく知られている（ド・モルガンの法則）。自然言語でもこの法則は成り立つことが多いが、否定と同じ文演算子である疑問に変えると一律に成立しないことが分かっている。そのため、言語学の研究では、疑問の or は平叙の or と違うものとして分析されてきた。それに対し、本研究では、疑問と平叙の or にそれぞれ異なる接続詞を有する中国語、フィンランド語、エジプトアラビア語の三つの言語での選言表現の振る舞いを調査し、選言表現の通言語的・統一的分析を提案した。

■応用・将来展望

1. 様々な言語における選言接続詞の調査を通して、選択疑問文の研究を発展させ、普遍的な理論を構築する。
2. 疑問文に現れる文末助詞の研究を通して、疑問文の意味論についての考察を深め、選択疑問文の意味論と整合性のある意味論を構築する。

■活動実績

・日本中国語学会 2013 年度第３回関東支部例会、会場の提供、発表者の依頼、お茶の水女子大学、2013.12
・「選言と連言の作用域の研究」、2014
・「選言と連言の作用域の研究」、2013
・「選言と連言の作用域の研究」、2011

主要研究成果

・伊藤さとみ、「現代中国語における“還是”と“或者”の交替現象」、お茶の水女子大学中国文学会報、３３巻、、１-１９頁、2014.04
・伊藤さとみ、「心理副詞の修飾構造」、日中理論言語学の新展望１－統語構造、2011.12
・伊藤さとみ、「“被”構文における状語の描写対象」、お茶の水女子大学中国文学会報、2011.04